HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	情報格差・学びの機会不均衡の是正を目指して ： 巻頭言に代えて
Author(s)	山村, 高淑
Description	2021年度オンライン観光創造フォーラム. 2021年10月15日-2021年12月1日. オンライン. 北海道大学観光学高等研究センター. 巻頭言.
Relation	観光創造フォーラム2021講演録 / 山村高淑　編 Proceedings of Tourism Creation Forum 2021 / Edited by Takayoshi Yamamura
Citation	CATS 叢書, 16, 1-2
Issue Date	2022-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84837
Type	other
File Information	CATS16_1.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

情報格差・学びの機会不均衡の是正を目指して

――巻頭言に代えて

山村 高淑
北海道大学観光学高等研究センター センター長／教授

本書は、北海道大学観光学高等研究センターが 2021 年 10 月から 12 月にかけて開催した、連続オンライン観光創造フォーラムの講演記録を叢書として取りまとめたものです（開催日時につきましては目次をご参照下さい）。まずは、ご登壇ならびに講演録のご校正を頂きましたゲスト講師の皆様に、主催者を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

弊センターでは、昨年度に引き続き、今年度も積極的にオンラインでのフォーラム開催を推進致しました。これには大きく四つの事由があります。

第一に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためです。2019 年に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、その後も変異株の登場等により、目下終息の見えない状況にあります。こうした中、一般の皆様に公開するフォーラムとして、来場される皆様の安全を第一に考える必要がありました。

第二に、オンラインというツールを新型コロナウイルス感染拡大防止のための止むを得ない手段として捉えるだけでなく、情報格差・学びの機会不均衡を是正するための強力且つ有効な手段として利用しようと考えたためです。ここで言う情報格差・学びの機会不均衡とは、地方部と中央との情報格差、会場に来られる方と来られない方との情報格差を意味します。これまでの日本では情報は大都市部に集中し、東京などの大都市部で多くのシンポジウムやイベントが開催される一方、地方部でのそうした機会は圧倒的に少ないものでした。北海道においても札幌へ情報が一極集中している状況です。こうした中では、都市部に容易にアクセスできない地域に居住している皆様は、多額の交通費を支払って会場へお越しにならなければなりませんでした。また、都市部に居住していても、ハンディキャップをお持ちで会場へのアクセスが困難な方や、職場や家事の関係で時間的に会場まで足を運ぶのが難しい方も多くいらっしゃいます。こうした背景が生んできた情報格差、学びの機会の不平等は、実はかなり深刻だったのではないかと私は考えています。オンラインでの講義に対しては、目下、実際の対話とは異なり微妙なニュアンスが伝わらず学びの方法としては不適切である、コロナ終息後は全て元の対面に戻すべきである、という意見が、実は教育現場でも多く聞かれます。しかし、こうした意見がある一方で、オンラインによって救われている多くの方々がいらっしゃることも事実なのです。観光学高等研究センターがこれまで最重要視

してきた、〈地方・地域が元気になるためのお手伝い〉というモットーから見ても、地域間・主体間での情報格差、学びの機会不均衡の是正は、極めて重要なテーマとなります。この意味で、弊センターでは今後もオンライン方式を推進していく予定です。

第三に、地域に根差して先駆的なお取組をなさっていらっしゃる現場の方々の声を、広く世界に伝えたい、と考えたからです。ツーリズムという実践・産業は今後どうあるべきなのか？　そもそもツーリズムという概念自体、再考する必要があるのではないか？　変えるべきは何で、変えてはいけないものとは何なのか？　……コロナ禍という困難な状況の中で、あらゆる地域がこうした問題に直面しています。そうした中で、地域の現場で汗をかかれていらっしゃる方々から、是非とも多くのことを学ばせて頂きたい。そしてそうした知見を、地理的制約を超えて広く共有させて頂きたい。そうすることが、コロナ禍をめぐる様々な問題を各地域が解決していく一助になるのではないか。そう考えて企画致しました。

そして第四に、フォーラム運営の効率化です。弊センターは専任教員４名、非常勤スタッフ４名からなる非常に小さな組織で、マンパワーにも限界があります。実際に物理的な会場を借りて大規模なシンポジウム等を開催するとなると、準備、当日の運営、後片付けなど、この人数ではスタッフに多大な作業を強いることになります。かといって、私どものような小さな組織は、他の大きな部局と比べ、実績が少ないままで良いのだろうか？　もちろん〈否〉です。この点でオンライン開催という方式は、私たちのような小規模組織にとって、効率的且つ効果的にフォーラムを運営するための、非常にありがたいツールとなりました。

以上、オンラインフォーラムを積極的に推進した四つの事由を述べて参りました。もちろん、こうした意図が十分に達成できたかというと、まだまだ不十分な点ばかりです。ご登壇頂いた皆様、ご視聴頂いた皆様に、ご迷惑をおかけした点も多々あったことと存じます。お気づきの点等ございましたら、是非とも弊センターまでご意見をお寄せ頂けましたら幸いです。弊センターでは、今後も、地域で頑張っていらっしゃる皆様を応援し、そうした皆様から多くを学ばせて頂くために、オンラインフォーラムシリーズを継続して参ります。引き続きご理解とご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

最期に、オンラインフォーラムの企画から運営、広報、本叢書の編集・刊行まで、大変きめ細かなマネジメントをして下さった、観光学高等研究センター事務補佐員の野田由紀子さんに心からの謝意を申し上げます。

2022 年 3 月 1 日